

CASBEE あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICH

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛三工業株式会社 豊田工場(仮称)事務厚生棟	階数	地上2階
建設地	愛知県豊田市西広瀬町小麦生635-30,635-31	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	106人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年7月 予定	評価の実施日	2023年8月30日
敷地面積	81,076 m ²	作成者	川口 将史
建築面積	1,637 m ²	確認日	2023年8月30日
延床面積	3,174 m ²	確認者	浦田 勝巳



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

①参照値: 100%
②建築物の取組み: 74%
③上記+②以外の: 74%
④上記+: 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>33.9 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	33.9 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	33.9 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
愛三工業株式会社 豊田工場(仮称)事務厚生棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ソーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

3 対応性・更新性				0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高=4200 壁長さ比率=0.155		5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ					3.0	4.0	0.40		3.0	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			②	0.3	2.6	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性					3.0	3.0	0.17		-	-
2 給排水管の更新性					3.0	1.0	0.17		-	-
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22		-	-
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22		-	-
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			独自③		2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30		-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-		-	-	3.6
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.68	3.0	5.0	0.30		-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20		-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.64	3.0	4.6	0.30		-	4.6
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価					-	-	-		-	
4.1 モニタリング					-	3.0	-		-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	-		-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	3.4
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水					3.0	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.5	0.63		-	3.5
2.1 材料使用量の削減					-	2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			② 独自	ビニル床材:一般廊下部、倉庫部分の床仕上げに採用 ロックウール化粧吸音板:事務所、食堂などの天井材に採用	3.0	4.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			② 独自	鉄骨造 下地と仕上がりが容易に分別可能(LGS下地石膏ボード仕上)	3.0	2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			② 独自		3.0	5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68		-	
1 消火剤					-	-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	1.00		-	
3 冷媒					3.0	-	-		-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率74%	-	4.0	0.33		-	4.0
2 地域環境への配慮					0.3	2.8	0.33		-	2.8
2.1 大気汚染防止					-	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.5	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			独自		-	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			独自		-	3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00		-	
2 振動			独自		-	-	-		-	
3 悪臭					-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制					-	1.0	-		-	
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

三菱工業株式会社 豊田工場(仮称)事務厚生棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:33.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 愛三工業株式会社 豊田工場(仮称)事務厚生棟

計画上の配慮事項	
総合	豊田工場の顔となるNearly ZEB取得を目指した事務厚生棟。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内装仕上にF☆☆☆☆を全面的に採用 ・建物内禁煙 ・照明制御あり
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室 天井高2.7m確保 ・リフレッシュできるアメニティールームを設置、売店の設置 ・階高=4200確保
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・開口部に複層ガラスの採用
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・躯体と内装仕上げの分離が容易 ・OAフロアの採用 ・F☆☆☆☆の建材使用 ・自動水栓・泡沫式水栓の採用、節水型大便器の採用
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房機器オール電化のため、燃焼機器なし
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。